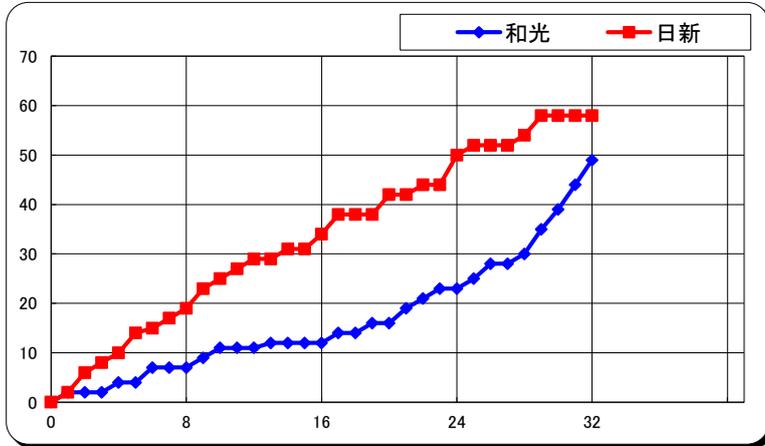




【得点経過】



【BOXスコア】

Team A		和光						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	角田 千奈津	×	11	1	3	2	1	
5	上家 菜々子	×	17	3	4	0	2	
6	本城 いづみ	/	0	0	0	0	0	
7	共田 彩美	/	0	0	0	0	0	
8	山崎 朋香	×	2	0	1	0	4	
9	島谷 莉央	×	8	1	2	1	0	
10	深澤 楓	DNP	0	0	0	0	0	
11	時田 美央	DNP	0	0	0	0	0	
12	吉田 真悠	DNP	0	0	0	0	0	
13	山野下 碧	×	2	0	1	0	1	
14	白幡 美幸	/	7	1	2	0	3	
15	黒澤 康予	/	2	0	1	0	1	
16	山田 みなみ	DNP	0	0	0	0	0	
17	共田 郁美	DNP	0	0	0	0	0	
18	志賀 茉有	DNP	0	0	0	0	0	
監督	岡元 優						0	
コーチ	三瓶 浩史						0	
合計			49	6	14	3	12	

Team B		日新						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	藤永 望花	×	11	0	5	1	0	
5	山下 理帆	×	18	0	9	0	2	
6	和田 理希	×	10	0	5	0	0	
7	板谷 花菜	/	0	0	0	0	2	
8	村崎 光	DNP	0	0	0	0	0	
9	池田 涼香	×	2	0	1	0	0	
10	中村 桜花	×	9	0	4	1	1	
11	長谷川 杏樹	/	0	0	0	0	0	
12	和泉 沙也加	/	8	0	4	0	1	
13	進藤 吏花	/	0	0	0	0	0	
14	小山 純奈	DNP	0	0	0	0	0	
15	高橋 美晴	/	0	0	0	0	1	
16	花口 花麗	/	0	0	0	0	0	
17	西谷 晴夏	/	0	0	0	0	0	
18	村崎 怜	/	0	0	0	0	0	
監督	重田 稔						0	
コーチ	友利 彩子						0	
合計			58	0	28	2	7	

大会名	東日本大震災復興支援平成24年度全国中学校体育大会第42回全国中学校バスケットボール大会																	
会場	さいたま市記念総合体育館																	
日時	平成24年8月22日(水) 16:10																	
コート	Dコート	第6試合																
カテゴリー	女子	予選Pリーグ																
主審	長谷川 裕 (神奈川県)																	
副審	浜 満男 (埼玉県)																	
Team A	和光 (北海道)	49	Team B 日新 (山口県)															
		<table border="1"> <tr><td>7</td><td>1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>5</td><td>2nd</td><td>15</td></tr> <tr><td>11</td><td>3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>26</td><td>4th</td><td>8</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	7	1st	19	5	2nd	15	11	3rd	16	26	4th	8		OT		58
7	1st	19																
5	2nd	15																
11	3rd	16																
26	4th	8																
	OT																	

【戦評】

一勝が欲しい北海道ブロック代表和光中と、初戦を逆転で勝ち上がり、勢いに乗る日新との一戦。

1Q、日新は積極的にオールコートマンツーマンで仕掛け、ペースを握ろうとする。リズムのつかめない和光は残り5分タイムアウトを取り流れを戻そうとする。タイムアウトを機に2-2-1ゾーンプレスから2-1-2ゾーンにディフェンスを変え、さらに積極的にボールを奪いに行く。余裕のある日新のペースで和光7対19日新で終える。2Q、日新は#4を中心にオフェンスを組み立て2-2-1ゾーンプレスでプレッシャーをかけに行く。3' 38和光#13が怪我でベンチに下がると両チームとも落ち着きがなくなり、得点が思うように取れなくなる。残り1分半を残し、日新タイムアウトを取り落ち着けようとする。タイムアウトが明けて、ディフェンスのチェンジングで得点を稼ぎ、和光12対34日新でハーフタイムへ。

3Q、日新は#6を中心にオフェンスを仕掛け、積極的に得点を狙いに行く。対する和光は#4、#5のドライブでゴールを目指す。和光23対50日新で大きく引き離して迎えた4Q、残り2' 46でメンバー交代を機に和光が#14、#4、#5を中心にオフェンスのリズムをつかみ追撃を始めるも、無念のホイッスル。49対58で日新が決勝トーナメントへの切符をつかんだ。

【戦評記入者】

斉藤 耕太郎